

岡崎の文長・丁寧さの変化と職業
Change of sentence length and politeness and
occupations in Okazaki

(Ver. 1.0)

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

柳村 裕

YANAGIMURA Yu

平成 28 年 2 月 5 日

5 February 2016

1. はじめに

本稿は、「日本語の大規模経年調査に関する総合的研究」の逐次報告であり、国立国語研究所がこれまで半世紀以上にわたって継続した岡崎敬語調査に関する資料集の一部である。本稿では被調査者の属性の一つである「職業」を取り上げ、話者の職業の分類と集計、職業による言語事象の差異、経年変化パターンの差異を報告する。

職業に関する分析は、これまでの岡崎調査で重点的に扱われてきたとは言い難い。特に第3次調査実施以降は、職業に関する分析はほとんど行われておらず、初期的集計・分析の段階にある。しかし今回、言語事象の職業差を見るのに有望な分類方法が見つかり、「接客系」すなわち販売・サービス等の職務に従事する話者に特徴的なパターンが観察されることが分かった。本稿はこの初期的分析結果の報告である。

本稿では、岡崎調査の資料全体のうち、現在分析が進んでいるランダムサンプルを中心に扱う。パネルサンプルは、一部集計が済んでいるものは参考としてグラフなどに表示するが、主な考察対象とはしない。パネルサンプルについては、同一個人の職業が年代によって変化する可能性があるなどの理由で、扱いが難しい。ただし後述するように、今回ランダムサンプルについて得られた分析結果から、職業の分析にはパネルサンプルを用いるのが有効であるという見通しを持っている。パネルサンプルの職業の分析については現在検討中であり、今後の課題とする。

2. 職業の分類と集計

一般にいう「職業」とは「所属産業」と「職務内容」の両者を指す。所属産業とは、一般に業種などとも呼ばれるもので、「製造業、農業、漁業、金融業」などの産業分類を指す。一方職務内容とは、「管理職、専門技術職、販売、サービス、労務」など、各個人が実際に行う具体的な仕事を指す。例えば銀行に勤める人を例にとると、所属産業は「金融業」となるが、その中で「管理的・事務的」な仕事に従事する人と、窓口で「接客・販売」に従事する人と、守衛とでは、職務内容が異なる。

岡崎調査では、所属産業と職務内容の両方に関する調査項目を設けた上で、職務内容を重視してきた。これは、例えば同じ金融業に所属する銀行員でも、管理的業務に従事する者と、窓口での接客に従事する者とは、敬語の使い方と敬語意識に違いがあると考えられるためである。この違いを探るため、過去の調査報告と同様に、本稿でも、職務内容に関する集計・分析を報告する。

岡崎調査の職業に関する調査項目は、調査次ごとに質問の仕方が異なるため比較が難しい。このため第3次調査の調査報告書では、総務省統計局の日本標準職業分類（1997年改訂版）に基づき、3回の調査結果を統一の基準で再分類・集計している（国語研究所2010、第2分冊）。本報告では、この第3次調査報告での職業分類を基礎として、新たな分類と集

計を行った。

本稿での職業の分類と、調査次ごとの人数と割合を表 1 に示す。この表の左端の列に示したように五つのグループを区別した。まず有職と無職に分け、有職は事務系、接客系、労務系の 3 グループに分けた。「その他」のグループには、分類不能の職業、複数回答、無回答の話者が含まれる。

表 1 職業の分類と調査次ごとの集計

	1次				2次		3次		合計	
	C		P		人数	割合	人数	割合	人数	割合
	人数	割合	人数	割合						
事務系	16	8.7%	40	16.3%	93	23.3%	83	27.1%	232	20.4%
接客系	24	13.0%	30	12.2%	47	11.8%	47	15.4%	148	13.0%
労務系	48	26.1%	50	20.4%	56	14.0%	50	16.3%	204	18.0%
無職	64	34.8%	90	36.7%	119	29.8%	104	34.0%	377	33.2%
その他	32	17.4%	35	14.3%	85	21.3%	22	7.2%	174	15.3%
合計	184	100%	245	100%	400	100%	306	100%	1135	100%

※「その他」は分類不能の職業、複数回答、無回答

次に岡崎調査の過去の報告との対照のために、表 1 に示した本稿の職業分類と、第 3 次調査報告書（国語研究所 2010，第 2 分冊）での分類の関係を表 2 に示す。左端の大分類が表 1 と同じ本稿での分類、2 列目の小分類が第 3 次調査報告書での分類である。

表 2 第 3 次調査報告書（国語研究所 2010，第 2 分冊）での職業の分類

大分類	小分類	1次				2次		3次		合計	
		C		P		人数	割合	人数	割合	人数	割合
		人数	割合	人数	割合						
事務系	専門的・技術的職業	7	3.8%	11	4.5%	23	5.8%	39	12.7%	80	7%
	管理的職業	1	0.5%	6	2.4%	19	4.8%	5	1.6%	31	3%
	事務	8	4.3%	23	9.4%	51	12.8%	39	12.7%	121	11%
接客系	販売	20	10.9%	24	9.8%	33	8.3%	26	8.5%	103	9%
	サービス職業	4	2.2%	6	2.4%	14	3.5%	21	6.9%	45	4%
労務系	保安職業	1	0.5%	1	0.4%	0	0.0%	3	1.0%	5	0%
	農林漁業	9	4.9%	7	2.9%	0	0.0%	3	1.0%	19	2%
	運輸・通信	0	0.0%	0	0.0%	6	1.5%	4	1.3%	10	1%
	生産工程・労務作業	38	20.7%	42	17.1%	50	12.5%	40	13.1%	170	15%
	無職	64	34.8%	90	36.7%	119	29.8%	104	34.0%	377	33%
	その他	32	17.4%	35	14.3%	85	21.3%	22	7.2%	174	15%
	合計	184	100%	245	100%	400	100%	306	100%	1135	100%

この表から分かるように、本稿での「事務系、接客系、労務系」の 3 分類は、第 3 次調

査報告書での複数の職業区分を統合したものである。これは、第一に、各職業区分の話者数を信頼できる数に増やすためである。また、職務の中の「ことば・敬語の使用」に関して類似の傾向を示すと考えられる職業をまとめるためでもあり、表 2 の大分類はこれを意図している。まず「労務系」は、肉体労働を主な職務とし、職務の中でことばによるコミュニケーション、特に敬語の使用は比較的少ないと考えられる職業のカテゴリである。これに対し「事務系」と「接客系」は、職務の中でことばの使用、対人コミュニケーションが比較的多いと考えられる職業である。このうち、「事務系」はデスクワーク、「接客系」は顧客との会話が職務の中心となると考えられる職業を含む。したがって職務の中の敬語の使用は、「労務系」で最も少なく、「接客系」で最も多いと考えられる。この 3 者を比較することで、職務の中の敬語の使用量が、実際の敬語使用の特徴（丁寧さ、文長など）にどのような影響を与えるかが分かる。

調査次ごとの話者全体に占める各職業の話者の割合を図 1 に示す。第 1 次は P（プロパー or プロフェッショナル）と C（コントロール or カレッジ）を合計した。凡例は小分類のみを表示してある。大分類は、上から順に、白塗りが事務系、黒塗りが接客系、網掛けが労務系である。大分類ごとの内訳を見ると、事務系は「専門的・技術的職業」と「事務」が中心で、「管理的職業」の割合は低い。接客系には「販売」と「サービス職業」が含まれ、「販売」のほうが多い。労務系には四つの小分類項目が含まれるが、「生産工程・労務」が最も多くの割合を占め、他の 3 項目は少ない。

本稿では、以上の「事務系、接客系、労務系」の 3 分類を主要な対象とするが、図 1 から分かる通り、この 3 分類を合わせてもサンプル全体の約半分程度しか扱っていないことになる。残りの半分は「無職」と「その他」であり、「無職」の多くは、以前は主婦だった。「その他」には、無回答の他に「分類不能の職業」と複数回答が含まれる。これらの話者をどう扱うかは今後の課題とする。

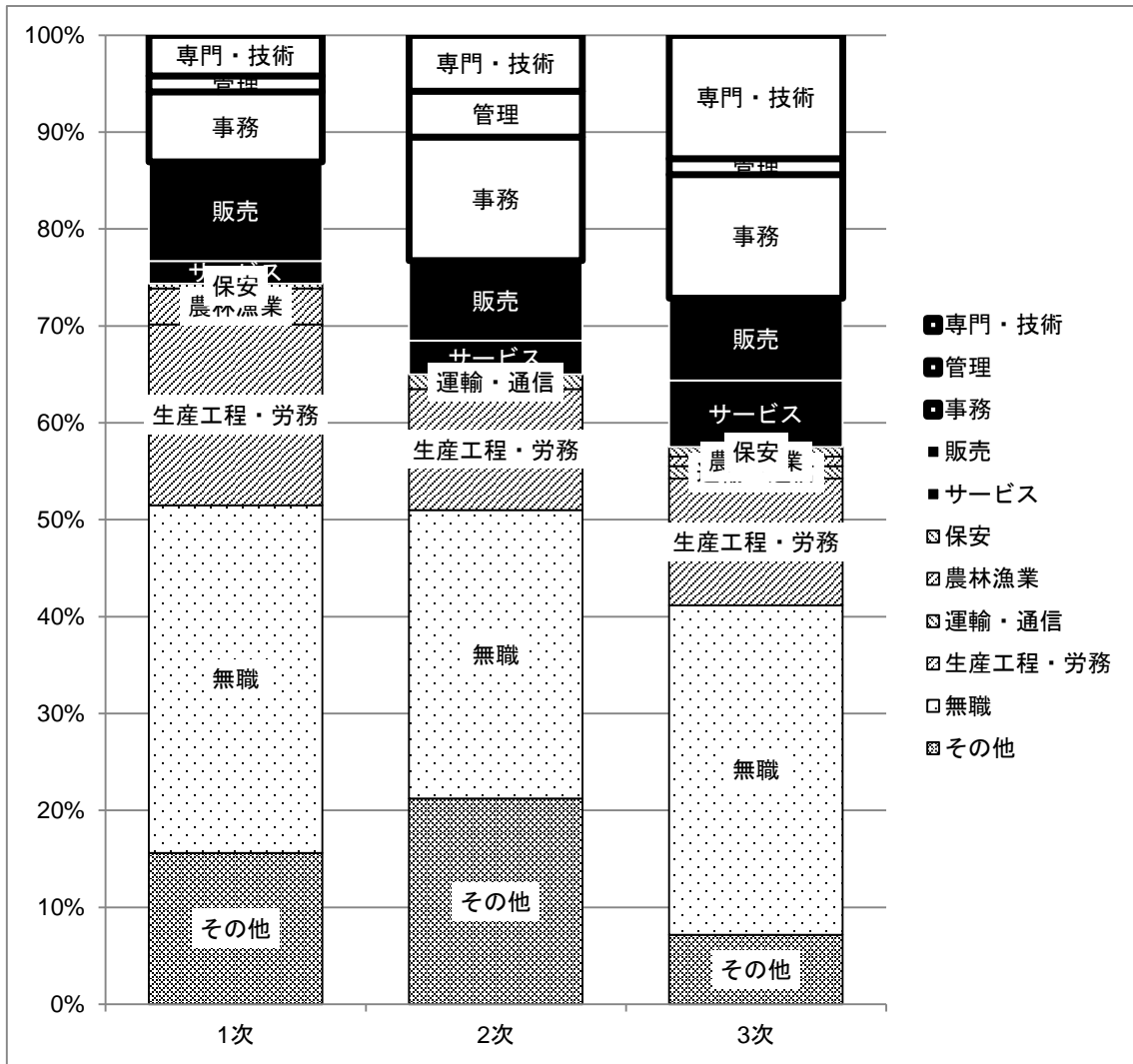


図1 調査次ごとの職業構成比

3. 職業による言語使用の違い：丁寧さと文長

職業によって差が見られる言語使用の特徴として、反応文の「丁寧さ」と「文長」に着目する。上述の3分類に「無職」を加えた四つの職業グループについて丁寧さと文長の平均値を求めた。調査次およびPとCを区別し、12場面全体を平均した。丁寧さを図2、文長を図3に示す。なお本稿では「事務系」「接客系」「労務系」の主要3分類を中心に扱う。「無職」と「その他」(分類不能、複数回答、無回答)は本稿では取り上げない。

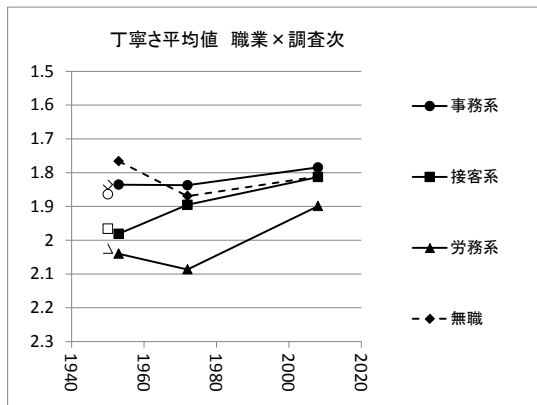


図2 丁寧さ平均値 職業×調査次

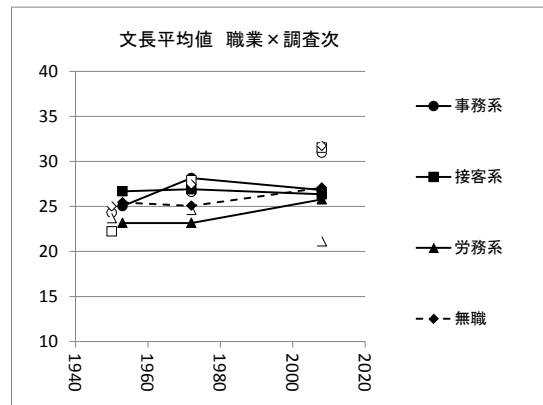


図3 文長平均値 職業×調査次

まず調査次（調査年）による変化を見ると、おおむねすべての職業で、3回の調査を通して丁寧さは高く、文長は長くなる傾向を見せる。これは全体の傾向と一致する。職業による差を見ると、他と明確に区別できそうなのは労務系である。丁寧さ、文長のいずれについても他の職業より低い値を示す。期待された通り、職務中の敬語使用が比較的少ないと考えられる労務系は、それが多い事務系・接客系に比べて、短くぞんざいに答えるといえそうである。一方で、顧客との会話のために職務中の敬語使用がより多いと考えられる接客系と、そうでない事務系との間には、期待されたような差は見られない。図3を見ると両者の文長に明確な差は無く、図2では事務系のほうがより丁寧である。

図2と図3からは、職業差の変化も読み取れる。丁寧さ、文長のいずれについても、職業による差は第1次および第2次調査で大きく、第3次調査にかけて縮小する傾向にある。職業と言語使用の結びつきが弱まってきていると読める。なお図3の第3次の白抜きマークはパネルサンプルの値だが、ランダムに比べて職業差が大きい。パネルはランダムに比べて年齢層が高いため、これは高年層の特徴だと考えられる。つまり高年層ではかつての職業差が保持されているようである。

次に話者の年代（生年）を区別し、上と同様に丁寧さと文長の平均値を求めた。丁寧さのグラフを図4～7に示す。これらの図をもとに、年代による言語使用の変化を職業ごとに見ていこう。

最も明確な職業差は、図4の事務系と図5の接客系の比較から読み取れる。図4によれば、事務系の話者の丁寧さは、年代によらずほぼ横ばいである。これに対し図5によれば、接客系では年代差が大きく、どの調査次でも概ね右下がりの曲線を示す。つまり高年層ほど丁寧さが高い。また、同一年代の話者を調査次間で比較しても同じことが言える。例えば各図の1930～1940年代生まれの話者を見ると、接客系の丁寧さは後の調査になるほど増える。事務系ではほとんど増加しないか、あるいは増加幅は少ない。ここから、事務系と比較すると、接客系の職務につく話者は加齢とともに丁寧さが増す傾向にあることが窺える。前掲の図2では、全体としての丁寧さは事務系のほうが高いことが分かった。これと

併せて考えると、事務系は若いうちから丁寧に話すものの、加齢による変化は少なく、接客系は若いうちはぞんざいに話すが、加齢とともにより丁寧に話すようになると言えそうである。職務中の敬語使用の多さが、調査場面における丁寧さの増加、すなわち敬語の習得と関わっている可能性を示唆する。

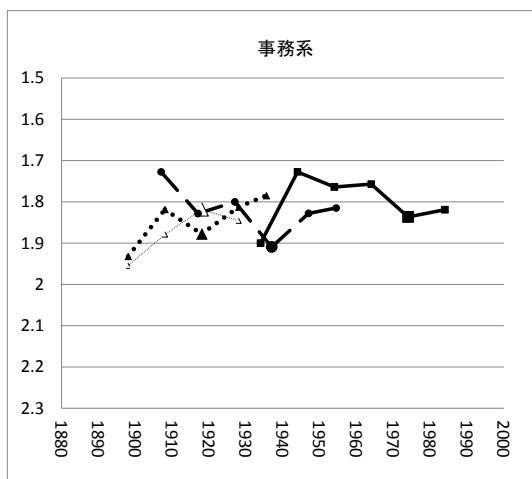


図4 丁寧さ平均値 事務系 調査次×年代

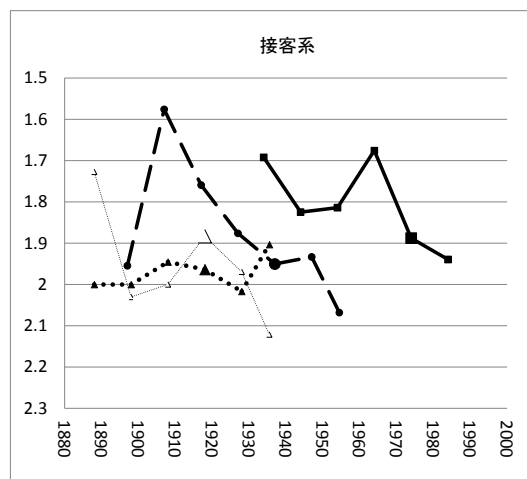


図5 丁寧さ平均値 接客系 調査次×年代

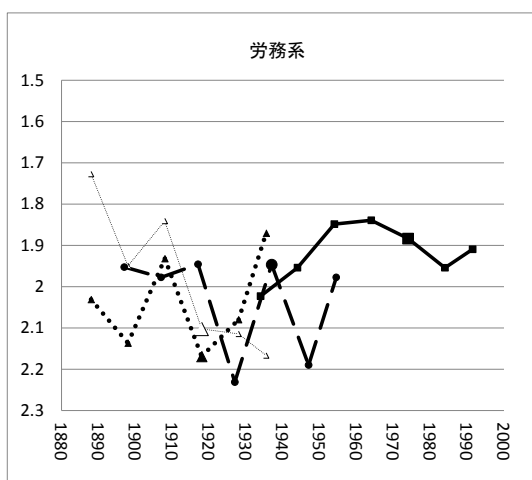


図6 丁寧さ平均値 労務系 調査次×年代

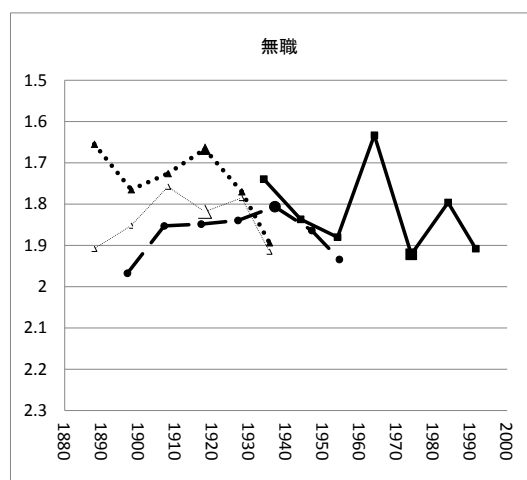


図7 丁寧さ平均値 無職 調査次×年代

図6を見ると、労務系の話者も事務系と同様に年代差は大きい。第1次では高年層ほど丁寧だといえるが、第2次ではそうした傾向は無くなる。第3次は逆の傾向を示し、高年層を除いて事務系と同程度の丁寧さになったことが注目される。最近の運送業の人や職人さんの客へのことばが、マニュアル敬語的ではあるが、丁寧になった傾向と合致する。丁寧さの年代による変化、加齢による増加は、接客系の職業の特徴だったといえそうである。

次に文の長さについても同様に、年代による差異を職業ごとに見てみよう。職業別に、年代ごとの文長の平均値を図8～11に示す。

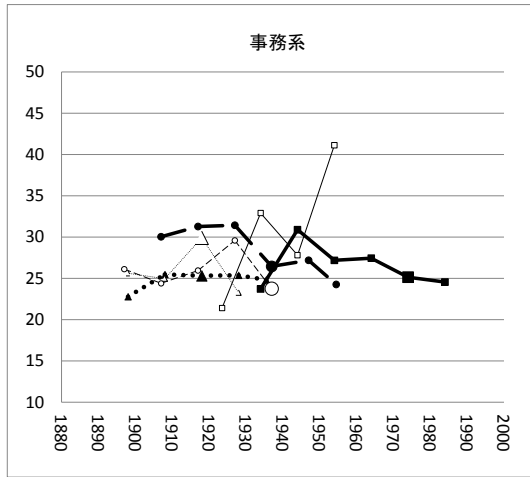


図 8 文長平均値 事務系 調査次×年代

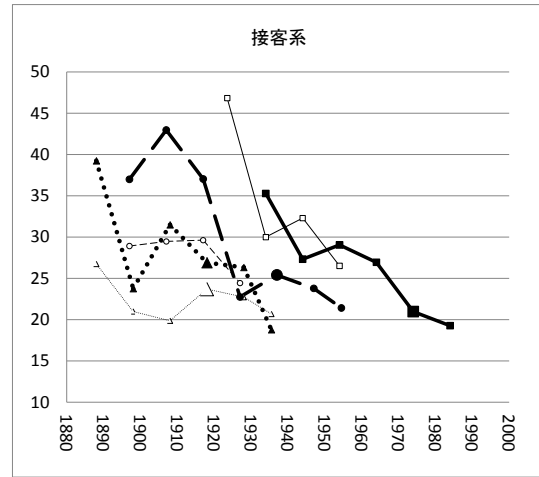


図 9 文長平均値 接客系 調査次×年代

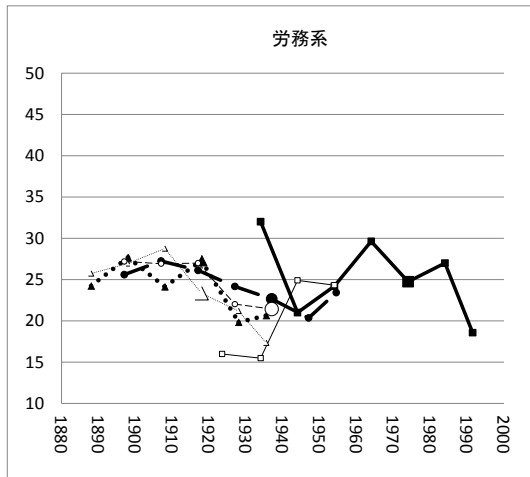


図 10 文長平均値 労務系 調査次×年代

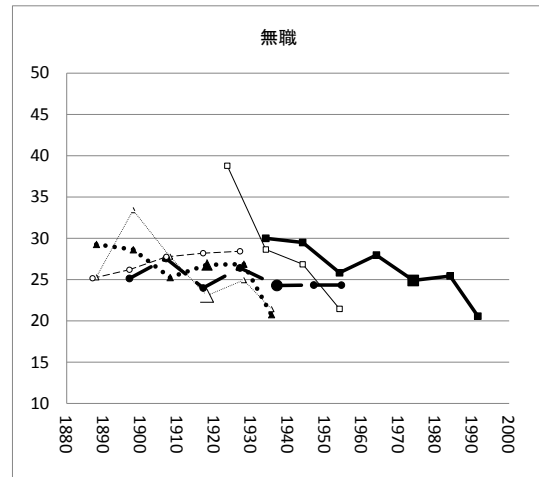


図 11 文長平均値 無職 調査次×年代

以上の図から、文長についても、丁寧さとほぼ同様のことが言える。図 9 の接客系では多くの曲線が右下がりになっているのに対し、他のグラフではおおむね横ばいである。接客系は加齢による文長の変化が最も大きく、高年層ほど長く話すようになるといえそうである。

文の長さはことばの丁寧さの反映である。敬語使用における接客業の位置が、明らかになった。

参考文献

国立国語研究所 (2010) 『敬語と敬語意識—愛知県岡崎市における第三次調査—』 科学研究費補助金研究成果報告書 第 1～4 分冊。

岡崎敬語調査資料集 27

Material for Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

岡崎の文長・丁寧さの変化と職業

Change of sentence length and politeness and
occupations in Okazaki

(Ver. 1.0)

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

著： 柳村 裕

YANAGIMURA Yu

発行：平成 28 年 2 月 5 日 5 February 2016

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2 Tel. 042-540-4300 (代)

10-2 Midori-cho, Tachikawa City, Japan 190-8561